

視 察 ・ 調 査 報 告 書

< 経 済 労 働 委 員 会 >

令和 6 年 第 2 回 沖 縄 県 議 会 (6 月 定 例 会) 閉 会 中

令 和 6 年 8 月 5 日 (月 曜 日)

沖 縄 県 議 会

経済労働委員会視察・調査報告書

視察・調査日時

令和6年8月5日 月曜日（1日）

視察・調査場所

糸満市

視察・調査事項

- 1 農林水産業について（畜産業の現状・課題について）

視察・調査概要

別紙のとおり

参加委員（11人）

委員長	新垣	淑豊
副委員長	次呂久	成崇
委員	座波	一
委員	大浜	一郎
委員	花城	大輔
委員	儀保	唯
委員	上原	快佐
委員	喜友名	智子
委員	上原	章
委員	瀬長	美佐雄
委員	當間	盛夫

不参加委員

委員	仲村	家治
----	----	----

委員外議員

議員	下地	康教
----	----	----

議会事務局（3人）

議会事務局政務調査課主幹 平良典子

議会議務局政務調査課主査 具志堅 宗 明
議会議務局会計年度任用職員 比 嘉 千 聖

別紙（視察・調査概要）

1 調査事項：畜産業の現状・課題について

（1）南部家畜市場の視察

- ・意見交換の前に南部家畜市場の施設内を視察した。

【南部家畜市場視察の様子】



（2）意見聴取（関係団体等の現状・課題についての説明）

ア 沖縄県農林水産部畜産課

- ・畜産業の情勢は、飼料価格の高止まりが続いていること、子牛価格の下落の長期化などにより非常に厳しい状況と認識している。
- ・これに対する県の支援としては、緊急的対応として令和4年度、5年度に33億円の支援、令和6年度に補正予算の17億円を合わせて計21億円となり、合計で約54億円の支援をしている。
- ・配合飼料価格に対する支援については、沖縄県配合飼料価格差補助緊急対策事業において、令和4年度における配合飼料価格を基準として、令和6年度に上昇した配合飼料価格の一部を補助しており、補助単価は四半期ごとに設定し、対象となる農家は配合飼料価格安定制度に加入している農家である。
- ・子牛価格下落に対する支援としては、沖縄県和牛子牛生産者緊急支援事業において、四半期ごとの県保証基準価格55万円と雌子牛平均価格の差額の一部を補助している。
- ・優良繁殖雌牛更新に対する支援としては、優良県産ブランド和子牛生産支援事業において、国が実施する優良繁殖雌牛更新加速化事業の奨励金に対し、県が一律18万円の上乗せ支援を実施しており、競り価格向上のための購買者の誘致なども行っている。
- ・中長期的な支援としては、畜産担い手事業による草地造成や、美百合

などの県有種雄牛を造成し、購買者へのPRなどを行っている。

- ・新たに肉用牛経営緊急サポート体制を立ち上げ、各関係機関と連携して、相談対応、技術的な支援、資金的な支援などができるよう取り組んでいる。

イ 沖縄県農業協同組合

- ・令和4年7月に沖縄県畜産経営危機突破生産者大会を開催し、同年12月に県議会へ請願を提出し、経済労働委員会で参考人として出席をした。その後、令和4年度補正予算11億円、令和5年度補正で9億円の支援をいただいた。
- ・しかし、その後も競り市場における価格の暴落など、厳しい状況が続いたことから、令和5年9月に沖縄県肉用牛経営危機突破生産者大会を開催した。
- ・令和6年2月に県議会へ改めて請願を提出し、経済労働委員会で参考人として出席をした。その後、同年6月定例会で補正予算約17億円が確定した。
- ・飼料価格支援や子牛価格下落への支援などにはありがたいが、畜産農家が安心して経営できる環境のため、一過性的な支援だけではなく、構造的な改革をしないといけない。

ウ JAおきなわ中部地区和牛改良組合

- ・子牛価格については、これまで下がったり上がったりを繰り返していたが、今は下落下落がずっと続いている状況である。
- ・県から子牛価格や飼料に対しての相当な助成をいただいているが、それでも農家として経営が苦しく、家族も養うことが厳しい状況である。
- ・和牛農家は、牛を減らして頑張る、離農するなど、分岐点にある。
- ・借入れして何とかつなげよう思うが、金利を払うのも困難な状況で、今までの借入れの仕方では駄目だと断られることが多い。
- ・中部地区で求めたい支援について聞き取りしたところ、一番は借入れができるように公庫などに口利きをしてほしいということや、牛1頭当たりに幾らの補助などをお願いしたい。
- ・農家は本当に命がけの状況であり、沖縄県、JA、県議会議員も一つになって、どうか農家を助けてもらいたい。

エ JAおきなわ南部地区和牛改良組合

- ・南部地区は組合員数が約200名である。
- ・私自身は、定年して3年になるが、老後のための貯金を崩しながら生活している。
- ・国や県からの支援により、何とか食いつないでいるが、大変厳しい状況である。
- ・1円でも多くの支援を強くお願いしたい。畜産農家を助けていただきたい。

オ JAおきなわ南部家畜市場女性部

- ・農家の通帳を預かる女性の立場から申し上げると、飼料・肥料の高騰に加え、子牛価格の下落で大変苦しい。
- ・乾燥飼料の補助は、肥育農家や酪農家にはあると思うが、和牛農家にはなく、去る3月の玉城知事との意見交換の場でもお願いをしたが、補助が実現していない。
- ・子育て世代は子どものための貯蓄を崩しながら、年金世代は微々たる年金を崩しながら、経営に充てている状態である。
- ・本当に畜産農家はいつ潰れてもおかしくない状態であることを御理解いただいて、急務で現金支給による支援を切にお願いしたい。

カ 沖縄県家畜改良協会

- ・家畜改良協会は、家畜の登録を行っている。特に肉用牛の母牛が令和4年度が約3800頭、令和5年度が約3400頭と、400頭余り減少している。子牛も500頭余り減少している。
- ・小規模農家や高齢者農家の離農で和牛農家の会員数が103件減少した。若い農家は、貯蓄を切り崩したり、借入れをしたりしながら何とかやっている。
- ・一番の経済効果が大きいのは種雄牛であり、美百合の成績がよいが、次に続く種雄牛を造成して、沖縄に来なければ買えない銘柄の子牛を生産しないといけない。
- ・中部地区の雌子牛価格が平均28万円で、生産費が55万円かかっているので、本当に赤字である。
- ・先ほどの県の説明で、優良繁殖雌牛の更新事業で、国が10万円、または15万円という設定があつて、県独自で18万円上乘せがあると聞いたので、これからどのように母牛に更新ができるのか期待したい。
- ・将来を見据えたお話としては、5年に1回開催される全国和牛能力共

進会が令和9年に北海道で開催される。共進会はこの間に改良した和牛を出品して比較するもので、出品には多額な資金が必要となるが、全国に沖縄の牛を紹介し、新規の購買者を開拓するためにも、大会に出る必要がある。

- ・ 前回の鹿児島県で開催した共進会から高校生を参加させている。未来の畜産の後継者となる子どもたちの育成にも頑張っていきたい。
- ・ 子牛の登録が減っている。農家は収益がないので餌をあげることもできない状況があり、また子牛が小さく、競りに出しても安い価格となってしまうという悪循環にある。
- ・ 今回の県の補正予算による17億8000万円の支援は農家にとって一息つけると思っているが、餌の高騰が続いているので、今後も全家畜に対する支援をいただきたい。

キ 沖縄県養鶏農業協同組合

- ・ 沖縄県の養鶏業で一番大きな農場は、個人経営で約12万羽となっているが、ひよこの受入れを今年は半分にしているのので、一、二年後にはこの農場では12万羽から6万羽になってしまう。
- ・ また、別の約1万羽の養鶏場では、2か月ほど前からもう1羽も受け入れておらず、このままでは1年後には成鶏羽数がゼロとなり、廃業になってしまう。
- ・ 飼料・資材の高騰や、ひなの仕入れ価格の上昇など、採卵養鶏農家も大変厳しい中で経営をしているのが現状であり、ぜひ支援をお願いしたい。

ク 沖縄県養豚振興協議会

- ・ 養豚界は過去最低の農家戸数になり、頭数も17万頭と過去に例がないくらい減少し、回復するには厳しい状況にある。昨年度の県内の頭数は30万頭を割り込み、農家数、頭数ともに落ちている。
- ・ 令和4年以降の飼料高騰などの情勢が背景にあるので、畜産農家全体が厳しい状況ではあるが、畜種ごとにまた違った悩みも持っている。
- ・ 養豚界では昨年度に県から約7000万円の予算を組んでもらい、1000頭以上の優良な種豚を東北地方から導入したが、その分輸送費がかなりかかるため、本土に比べてなかなか普及が進まない状況である。
- ・ 種豚導入を長期にわたって続けなければ、県内の養豚頭数の回復は難しいので、最低でも3年程度は助成をしてほしい。

- ・本来ならば母豚を県内で調達できるように、北部にある県家畜改良センターなどももっと活用していければと考えている。
- ・また、北海道を除いてほぼ全国で接種されている豚熱ワクチンを、将来的には沖縄が接種地域から外れるような対策を取っていただいて、アグーの輸出にも力を入れていただきたい。

ケ 沖縄県酪農農業協同組合

- ・県内の乳価は上昇傾向にあるが、配合飼料の高騰や、輸入牧草の代わりに自前で獲得するなどの負担がある。
- ・令和5年、令和6年と、県から価格に関する支援もいただいているが、配合飼料も乾牧草もじりじり値上がりが続いていて、酪農家もとても厳しい状況である。
- ・学校給食牛乳についても確保が困難な状況で、生産単価がなかなか上がらないからといって止めるわけにもいかないの、何とか前向きな支援を検討してほしい。

コ 陳情第115号に係る陳情者

- ・私は約3年前に南風原町和牛生産組合の組合長として、また南部地区和牛改良組合の監事として、関係各所に課題を訴えていたが、あまり聞き入れてもらえなかった。
- ・その後も競り価格の下落が続き、多くの農家からの相談も増え、3月の知事の視察での意見交換は、農家からの推薦により参加が実現し、知事に対して要望書の手交をした。それでも、農家の声は届いてない現状である。
- ・今回県議会の委員会でも検討をいただいて、農家の離農を食い止め、持続可能な経営ができるように支援していただきたいと思いますと思い、陳情を提出したところである。

(3) 質疑応答・意見交換

- Q** 離島の農家からは借入れについて、返済する間にも金利も上がり、家計が苦しい状況があると聞いているが、実態を教えてください。
- A** (JAおきなわ中部地区和牛改良組合) 例えば私自身は、JAからの3年間据え置き借入れを活用して400万円のうち200万円が補助で、残り200万円の自己資金は借入れをした。これまでは、牛を競りにかけて積み立てた資金から返済していたが、子牛価格の下落で返済が困難とな

り、この収支では新しい借入れもできない状況である。家計も削って家族を養うのも大変で、バイトもしている状況である。同じように崖っ縁の農家がたくさんあるので、公庫等から据置きの金利で借入れができれば一番ありがたい。

A (沖縄県農業協同組合) 三、四年前と今の借入れ状況は相当内容が異なっている。数年前は、増頭したいから運転資金として、またクラスター事業をしたいから裏負担の一部について、設備投資のため、などといった前向きな借入れであったが、今は、資金繰りが厳しくて、何とか1年間猶予してほしいとか、分割してほしいとか、後ろ向きな相談がたくさんある。

A (JAおきなわ南部地区和牛改良組合) 個人的には、今、畜産農家は災害級の状態と思っている。畜産農家や県民の生活安定のためにもっと現場に合った支援をしてほしい。例えば、いろんな事業を行うのではなく、経営が安定するまでは餌は全て無料にするとか、子牛価格を一番高いところに合わせて補填するなどといった、支援を一つに絞って手厚くしてほしい。

また、学校給食なども含めた、消費拡大の取組をしてほしい。

Q 県もこれまで様々な支援をしているが、対処療法となっており、情勢に合った対応になっていないことが結果として言える。短期、中期、長期に問題を分けて、県もJAも議会も農業の基本的なところから総合的に取り組まないといけないという、危機感を感じている。

A (沖縄県家畜改良協会) 短期、中期、長期での支援策は一つではないと思う。例えば、牛の飼料については、牧草があれば飼料を減らせるが、中南部では牧草が足りない。しかし、全県的に見ると、北部には草地造成事業の広大な草地があるので、そういったものをうまく活用できないかと考えている。

また、各畜産農家では堆肥が野積みされていて、自分の草地にまくとしても機械が必要となるが、農家個人が機械を持つのは厳しいので、どこかで取りまとめて機械を導入することで生産量も上がり、反収も上がっていくと思う。

A (JAおきなわ南部家畜市場女性部) 今いる農家の支援ももちろんだが、担い手の支援にも目を向けていただきたい。新規就農で畜産をやりたい人はいるが、認定農業者となるためには計画書で5年後の収益を175万円出さないといけないが、餌が高く、販売価格が下落しているのを、

どうやっても計画が立てられない現状がある。今このような情勢だから担い手は足りないということではなく、常に担い手は育成していく必要がある。

Q 県では主に3つ、配合飼料価格、子牛価格下落、優良繁殖雌牛更新に対する支援が今回の補正で行われているが、実際に足りているのかどうか聞きたい。また、八重山の農家からは窓口で実際に購入するときに現金がないので購入できないと聞いているが現状を聞きたい。

A (陳情第115号に係る陳情者) 6月定例会の経済労働委員会で、配合飼料価格支援で、畜種別で1農家に対する支援額が示されていて、和牛繁殖農家の単価がとても低かった。養豚、養鶏については100%餌で、酪農、肥育については餌と牧草で育てているので、配合飼料や粗飼料の支援の助成額が比較的大きいと認識している。和牛繁殖はやはり草がメインなので、粗飼料に対する支援が必要であると、以前から県に対しても要請しているがなかなか実現しない。

また、和牛繁殖農家の問題は、飼料高騰による肥育農家の買い控えが原因で、一番弱いところにいる。だからといって、また貸付けをすると、数年後の所得が減るので、農家の所得を下げずに向上させるためには、私は今貸付けをする必要はないと考えている。今支援してほしいのは損益分岐点を下回る分に対する補填をしてもらわないと、農家は回らないと思う。田んぼに例えると、水がないのに稲を植えても米はできない。農家は今どんどん貯金を崩していってもう現金がない、水がない状態なので、農家に水をあげてほしい。

Q 損益分岐点を下回る部分への支援額について、総額の試算があれば教えてほしい。

A (陳情第115号に係る陳情者) 陳情では、損益分岐点を下回った分を30万円として記載していて、その25か月間となると、150億円くらいになると思う。

Q 消費拡大の取組状況についてお聞きしたい。

A (沖縄県農林水産部畜産課) 県では、畜産振興公社のほうで沖縄県産食肉の消費拡大を従前から図っているところで、今、学校給食といったものも含めて、イメージアップさせるような取組を検討しているところである。

A （沖縄県養鶏農業協同組合）自由競争となる以前は、卵は県枠というのがあって県民約110万人に対する必要な鶏の数を基軸に考えてそこを守っていた。その時代は安定した卵の価格もついて、後継者もいて持続可能な状態であった。農業が本当に自由競争だけでいいのか考えないといけない時期にあると思う。

Q そもそも所得保障制度を国の制度としてやらないと、食料危機や気候危機に立ち向かえず、食料自給率のアップもままならないので、国に制度化を求める必要があると考えるがどう思うか。

A （陳情第115号に係る陳情者）価格保証に関して言えば、競り価格に最低基準を設けることが必要と考える。また、農業収入保険については、畜産が対象外なので、そういった制度改正も含めてやっていただきたい。

A （沖縄県家畜改良協会）所得保障ということでは、最終的には価格転嫁するために子牛の価格を上げる、保証基準価格を上げていく必要がある。

Q ひよこの受入れを減らしている農家があるとのことだが、県民生活にはどのような影響が出てくるのか。

A （沖縄県養鶏農業協同組合）農家の規模が、沖縄では数万羽、県外では100万羽と大きく違うので、生産コストも異なり、安い県外産卵がどんどん入っている。一般県民の消費に関しては、県外からどんどん安い卵が入るので影響はないが、県内の農家が減少するおそれがある。

Q 母豚導入支援を最低でも3年程度継続してほしいという話があったが、具体的に伺いたい。

A （沖縄県養豚振興協議会）県内の母豚が約1万7000頭で、そのうちの三、四割は毎年更新しないといけないので、毎年約5000頭を切り替えないといけない。肉豚を作る母豚と、その母豚を作る原種豚があり、今入ってくるのは母豚なので、毎年5000頭更新が必要だが、例えば原種豚が約1000頭入ってくると県内の母豚は一気に更新できる。

【意見交換の様子】

